

上川地域における木質バイオマスの安定供給に向けた取組

上川南部森林管理署（上川北部森林管理署・上川中部森林管理署・空知森林管理署北空知支署）

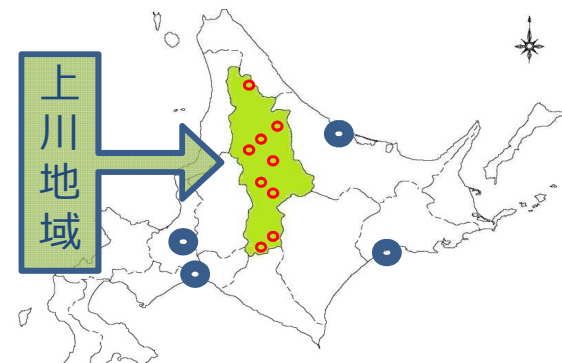
【目的】

近い将来には供給量不足が懸念されることから、「上川管内木質バイオマス安定供給協議会」の動向を踏まえつつ、木質バイオマスを安定的に供給するための仕組みづくりを目指した検討・取組を行う。

＜北海道森林管理局＞
上川北部森林管理署
上川中部森林管理署
上川南部森林管理署
空知森林管理署北空知支署



＜上川総合振興局＞
産業振興部林務課
南部森林室
北部森林室
木質バイオマス推進室



【平成27年度重点取組】

- 共通：局HPへの木質バイオマス発生情報掲載件数の増加
木質バイオマス資源の安定供給及び伐採搬出コスト削減のため立木販売団地の検討
- 上川北部署：伐採搬出現場における木質バイオマス原料の集荷方法の調査・検証を実施
- 上川中部署：民有林への列状間伐普及のため民団連携による「列状間伐現地研修会」を開催
- 上川南部署：雪氷乾燥システム・バイオマス対応型フォワーダの運用方法の検討
- 北空知支署：地域内の木質バイオマス需要動向の把握及び他地区の取組の情報提供 等

● 木質バイオマス大規模発電施設稼働予定
● 木質バイオマスエネルギー利用施設



上川南部森林管理署

【平成27年度の取組状況】

＜各署共通取組事項＞

- 木質バイオマス発生情報
13件掲載し9件販売。
- 立木販売団地の検討・実施
伐採計画の変更により、木質バイオマス資源向けを想定した団地として、間伐面積832haを予定。
(材積31,500m³)

●木質バイオマス対応型フォワーダの運用方法の検討

南富良野町では、公共施設にバイオマスボイラーが導入されていることやFIT発電用チップ工場が整備されていることから、木質バイオマス資源として林地残材等の安定供給が重要視されている。枝条等を効率よく集材するためバイオマス対応型フォワーダが導入された中、バイオマス林地残材の販売可能性を見極めるためバイオマス対応型フォワーダの功程調査を実施。作業システム毎に分析を行なった結果、コスト試算において4,500円/m³で土場に集積が可能であり、旭川地区の原料材価格(山元土場)に比べ低い集積コストであることが立証できた。これにより有効な集材システムを取りまとめ、推進チーム会議、上川地区バイオマス安定供給協議会において発表し広く公開。

●安定供給に向けた情報収集

木質バイオマス資源の搬出の可能性向には量の確保と搬出コストの低減を図ることが重要であることがわかった。このため立木のシステム販売に向け、28年度初めに伐採間伐とせざると得ないものを相当程度含む林分を対象に団地化し、署とシステム販売提案希望者（森林組合等）とで資源の有効利用に向けた課題の把握・共有を行った、これを踏まえ木質バイオマス資源を念頭に置いた立木のシステム販売を予定した。



【これまでの成果と今後の取組】

- ・HPへの木質バイオマス発生情報掲載により、一定の成果が上がっているところであるが、更に掲載・販売件数増加に向けた取組が必要。
- ・木質バイオマス資源向けを想定した立木販売団地（間伐）については、平成28年度から販売予定。
- ・各署等の重点取組事項については、引き続き関係機関との連携を図りながら実施予定。